

道徳だより 「清明(せいめい)」 第7号

令和7年12月15日発行
美川中学校道徳係

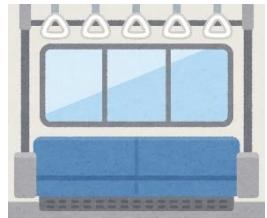
11月14日（金）に本校が県より指定された「いしかわ道徳教育推進事業」の研究発表会がありました。公開授業を行った3クラスのうち、前回は1年2組の授業の様子をお伝えしましたが、今回は2年3組の授業の様子をお伝えします。

○2年3組 道徳公開授業

＜内容項目＞

C 集団や社会との関わり 遵法精神、公徳心

＜教材名＞ 「宝塚方面行き — 西宮北口駅」



＜あらすじ＞

混雑している電車の中で、座席に鞄を置き、友達のマユミのために席を確保していたミサは、おじいさんに大声で怒鳴られた。マユミがやってくるが、周囲の人たちはミサたちに同情するわけではなく、2人を白い目で見ていた。

ミサとマユミは逃げるよう電車を降りる。マユミはおじいさんへの不満を口にするが、二人とも自分たちの行為が、周りの人たちにとって迷惑だったことにたぶん気づいていた。

- ＜発問＞
- 1 「電車を降りた後、ミサはどのような気持ちだったのだろうか」
 - 2 「おじいさんはなぜ激しく注意をしたのか」
 - 3 「あなたが周りの人の立場だったらミサとおじいさんのやり取りをどう考えるか」

＜授業の様子＞



＜生徒のワークシートより＞ 「周りの人のことを考える」について考えたこと

- ・ミサは、マユミのことを思って席をとっていたけど、周りの人にとっては迷惑でおじいさんは周りの人のためにミサ達を注意したけど、周りの人はうるさいと思っていたのかもしれないし、ミサ達も急に怒鳴られて驚いていた。だから、周りの人のことを考えるとは、特定の人だけでなく、もっと視野を広げて、誰にとっても迷惑にならないように行動をとることが大切だと思った。
- ・人の考え方は全然違うということが改めて分かったので、どっちが悪いとか正直言えないと思いました。自分も友達のためとかで、他の人からは批判を受けることもあるかもだし、ミサの気持ちもおじいさんの気持ちもどっちも分かるなと思った。
- ・公共の場で静かにすることや、周りがどんな目で見ているかなどが大切だと思った。なにか注意されたときに自分の悪いところを認めることが大切だと思いました。
- ・行いが悪い人を注意するだけじゃなくて、自分も周りの人の迷惑になっていないかを考えることが必要だと思った。